

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	宮本真二
所属機関名	生物地球学部 生物地球学科
職位	准教授
在籍年	10 年

教育の責任

地理学を専門としており、「地理学概論」、「日本地誌」など担当している。学科のなかでは、地理・考古学など、人文系のフィールド・サイエンスが担う役割を担当している。地理学の目的であることから地域理解の方法の一端を教授することが結果として責任と考える。

教育の理念

私の教育理念として、1) 地域を理解する方法を把握することと、その結果として 2) 他者（国・地域）理解する力を育成することが挙げられる。

1 回生が大半を受講する「地理学概論」では、上記（責任）の 1) を達成するために、自然・人文・社会現象で成立する（現代）社会の理解する役割としての地理学の多様性について、おもに日本で実際に行われている最新の研究成果にアクセスする方法と、その説明を展開している。また 2) に関しては、国民国家を成立・自覚させるための「地理学」という立場から、グローバル社会の現在における地理学の発展史や、国ごとの地理学という領域の多様性について説明している。

教育の方法・方針

上記の理念を具体的に達成するために、1) 高校まで地理と違い、「記憶に依存しない」地域理解の方法として、旅番組の隆盛やインターネット空間で提供される旅番組を紹介しながら、地域を「理解」する方法を講義形式で展開している。また、理念の 2) を達成するための方法として、各国で展開する諸外国の映像の駆使しながら日本との違いのなかで説明する。両者に共通することは、コロナ禍で作成した講義（授業）の要点を整理した動画を同時公開しながら「振り返り」を促す方法・方針をとっている点にある。

教育の成果

- 1) コロナ禍に見いだされた、オンライン・コンテンツ（動画）で理解が深まったとの評価。
- 2) 本講義開講時期以降に連動する地理学関係の実習もオンラインに適合性が高い学生がいることの発見（全体作業だけではない）。
- 3) 高校までの地理と地理（学）の違いが理解できたとの情報は、学の一端の魅力にふれられたのだと感じる。
- 4) 地域理解のツールとしての地理学の立場が、上記の 2) との違いが鮮明になっているのだと感じる。

今後の目標

【短期】

- ・他の科目（次年度以降）との整合性（講義形式）の向上させ地域理解をうながす。
- ・他の科目（次年度以降）との整合性（実習形式）の向上させ地域理解をうながす。

【中期】

- ・「学」（＝科「学」）の一端が生活世界で「連続する」ことの実感の理解の促進。

【長期】

- ・「学」（＝科「学」）を通じて生活世界を「たのしむ」ことができること。

根拠資料

- ・ 2020 年度の授業アンケート
- ・ 2021 年度の成績評価レポート（オンライン評価方針）